

友だちのよいところを見つけよう

オーストラリアの人たちは、あいさつがわりに人を褒めます。しかし、日本人はどうでしょう。気がつくことと言えば、相手の欠点や失敗ばかり。どちらかという褒めることは、あまりないように思います。

お互いの間に交わされた会話、言葉にはどんなものがあったのでしょうか。ここで、ちょっと改めて考えてみましょう。

何故なら、子どもたちの口からは「先生、〇〇君がね、いくら注意しても止めないんだよ。」とか「〇〇さんがね～～してるよ」と言った相手に対する不平や不満が耳に飛び込んできます。

それでも、中には

「先生、〇〇君が掃除を一生懸命しているよ」

「〇〇さん、とっても字がきれいだね」

と言ってくる子どももいるのですが、決まっておそろおそろ、こっそり告げていきます。不満は思いっきり声を大にして、相手のよいところを小さな声で褒めていく、その逆だと最高なのですが。。。。。

子どもたちが、友だちのよいところを見つけることは、そう難しくないはずですが、それを認めてあげることが難しいのです。そこには、“うらやましいな”という心が伴ってくるからだと思います。けれども、褒めてあげられるということは、やさしい心をつくり、その子どもの向上心をそそることになるはずですが。

“うわぁーいいな”という気持ちから、一步踏み出して“上手だね”“おめでとう”“よかったね”の一言がさらりと言える

「心は太平洋ぜよ」(by 坂本龍馬)

のような広い心を持ってほしいです。

お知らせ

10月1日より、第3学年担任として、先生がより、転入いたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。

駒形小ホームページ

喜多方市立駒形小学校検索

または右記のQRコードよりアクセス

